

TECHNICAL DATA

仕上りの種類	セメント系下地調整塗材 2種 (下地調整塗材C-2)
製品名	カチコテSP

第6版 作成日： 2016年 11月 16日

標準施工仕様書

- 種類 : セメント系下地調整塗材 2種 (下地調整塗材C-2)
- 製品名 : カチコテSP
- 素地 : コンクリート・セメントモルタル 等
- 適応範囲 : 建築物の内外装工事の下地調整塗材
- 工程 :

新規下地

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間 (23°C)	所要量
素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分などの付着物をワイヤーブラシ、かわすき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。				
下地調整	カチコテSP 主材 : 20kg 清水 : 5.0~5.5 L	金こて等	1 ∪ 2	16以上※ 工程内 1以上	約16 m ² /袋(1mm厚) 約1.2 kg/m ²

標準塗厚 : 0.5~3.0mm

単位容積質量 : 約1.6kg/L (練り上り容量 : 約16L)

練り混ぜ後の可使用時間 : 1時間以内(20°C)

※施工後の仕上材を施工するまでの塗装間隔時間は、水系仕上材の場合、16時間(23°C)以上、溶剤系仕上材の場合、72時間(23°C)以上として下さい。

- 工法 :

(1) 素地調整

- ・コンクリート面の突起物、レイトンス及び白華は、グラインダーがけ又は皮スキ等で除去して下さい
- ・汚れ及び付着物は、ワイヤーブラシ・研磨紙・布等で除去し、必要に応じて水洗いを行って下さい。
- ・下地のひび割れ、破損、浮きなどはBR工法等で適切な処理をして下さい。
- ・旧塗膜の浮き・剥がれ・チョーキング層等は除去してから施工して下さい。
- ・下地面に残留する金属(番線・くぎ等)は除去して下さい。

(2) 材料の取扱い（練り合わせ）

- ・製品は空練りを行った後、練り混ぜを行って下さい。
- ・清水 5 L に材料 20kg を徐々に加え均一に混練し、必要に応じて 0～0.5 L の清水で軟度調整して下さい。

(3) 施工

- ・下地面の乾燥は十分行なって下さい。ただし、下地面が極度に乾燥している場合は、適度の水湿しを行って下さい。
- ・施工は、こて塗り又はへら塗りとし、下地の不陸が大きい時は、初めにすり込むようにして不陸調整を行い、最後に均一な厚さに塗り付けします。
- ・特に塗装下地の場合は丹念に平滑に仕上げして下さい。
- ・施工後、仕上材を施工する際は、十分に硬化・乾燥（含水率 10% 以下、pH 10 以下）していること確認してから行って下さい。

● 荷 姿

下地調整材： カチコテ S P

NET： 20 kg/袋

成分表

●下地調整材： カチコテSP

内 容	重量 (%)
普通ポルトランドセメント	44.2
添加剤	1.2
骨材	48.9
アクリル樹脂パウダー	5.7
計	100.0

性能試験成績書

種類	セメント系下地調整塗材 2種(下地調整塗材C-2)	
商品名	カチコテSP	
供試材料	カチコテSP	
試験方法	JIS A 6916:2014に準拠	
項目	規 定	結 果
軟度変化	-20% ~ 20%	5
耐ひび割れ性	ひび割れがないこと	合 格
耐衝撃性	ひび割れ及び剥がれがないこと	合 格
付着強さ	標準養生	1.0 N/mm ² 以上
	低温養生	0.7 N/mm ² 以上
吸水量	1 g以下	0.7
耐久性	割れ、膨れ及び剥がれがなく、付着強さは 1.0 N/mm ² 以上とする。ただし、仕上塗材だけで破断した場合は 0.7 N/mm ² 以上とする。	合 格 1.1
-以下余白-		

*上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承ください。

施工にあたっての要点

●施工

- 【1】 色・模様決定に当たっては、原則として塗見本を作製して、工事監理者の承認を受けて下さい。
- 【2】 塗見本は、必要に応じて工程ごとに手順が分かるものとします。
- 【3】 使用量の確認は塗見本との比較または単位体積当たりの使用量で確認して下さい。
- 【4】 所定の使用量に達しない場合や超えてしまう場合には、種々の欠陥を生じる場合があります。所定の使用量を守って施工して下さい。

●材料

- 【1】 製品は直射日光下及び0℃以下での保管は避けて下さい。
- 【2】 製品は、湿気に注意し、水係を避け、パレットの上に置き、なるべく乾燥した屋内に保管して下さい。
- 【3】 施工時は換気を十分行なって下さい。

●工法

- 【1】 各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工して下さい。
- 【2】 製品はミキサーで混ぜ合わせて下さい。
- 【3】 製品は空練りを行った後、練り混ぜを行って下さい。
- 【4】 練り水及び希釈水は必ず清水を使用して下さい。
- 【5】 練り混ぜ後、可使時間以内に使い切ってください。また、可使時間は温度、希釈によって変わりますので、練り混ぜ後はなるべく早く使い切ってください。
- 【6】 可使時間の過ぎた材料を、練り直して再度使用しないで下さい。
- 【7】 練り足し、水を加えての練り戻しはしないで下さい。
- 【8】 表面に白華が発生した場合は水洗い等により除去してから次工程の作業を行ってください。

●施工管理

- 【1】 施工場所の気温が5℃以下、湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生じることがありますので、施工を避けて下さい。
- 【2】 降雨、結露、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を避けて下さい。
- 【3】 施工しない箇所はあらかじめ養生をし、その他の材料が付着しないようにして下さい。
- 【4】 養生を剥がす際は、十分に注意して行って下さい。
- 【5】 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度を上昇を防止し

て下さい。

- 【6】 施工箇所が高温である場合は、製品をできるだけ気温の低い所に保管し、あらかじめ冷却した水で練り混ぜて下さい。
- 【7】 既調合タイプの製品に現場で、セメント、砂等の指定材料以外を使用しないで下さい。
- 【8】 小分けでご使用の場合は計量器で正確に計量を行なって下さい。
- 【9】 仮防水性は完全な防水材では有りません。降雨・降雪が予想されたり、下地のひび割れ等の劣化が激しい場合には、下地調整後シート養生等で漏水対策を講じて下さい。

●その他の注意事項

- 【1】 施工器具等の洗浄水が、河川に流出したり、土壌にしみ込まないようにして下さい。
- 【2】 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行って下さい。
- 【3】 シーリング材の上に施工する場合、シーリング材の種類等により、汚染や密着不良を起こすことがあります。詳しくは弊社営業所までお問い合わせ下さい。
- 【4】 施工器具・条件は代表的なものです。
施工器具、施工方法により若干の色相差を生じることがあります。
- 【5】 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。
- 【6】 防藻・防カビ効果は藻やカビの繁殖を抑制するものです。藻やカビが発生しないことを保証するものではありません。また、その効果は永久に続くものではありません。すでに発生している藻やカビは除去してから施工してください。
- 【7】 改修・改装工事の場合は、弊社最寄りの営業所にご相談ください。
- 【8】 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細は SDS（安全データシート、旧 MSD S）を参照して下さい。

*本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようして下さい。